

2 本町の景観特性

(1) 本町の景観特性の概要

本町は、船通山や鯛ノ巣山などの悠久の歴史をみつめてきた中国山地の名峰に囲まれ、長い時を刻みながら、流れ続けている斐伊川など、豊かな自然環境を有しています。

それに裏付けされて積み重ねられた歴史文化のもとに、多様な景観の礎が築かれてきました。

古事記、日本書記で語られるスサノオのヤマタノオロチ退治神話をはじめとする伝承地は数多く残り、神話時代の風致を感じさせてくれます。また、出雲国風土記に登場する地名や神話などは、人々の心に受け継がれて語り継がれています。さらに中世戦国時代を物語る三沢氏の居城であった三沢城などの城郭や、中世に由来して形成された町並み景観も、その面影を今にとどめています。

そして、隆盛を極めた「たたら製鉄」によって本町の景観がもっとも特色づけられたといっても過言ではありません。

長い歳月にわたって旺盛に流された鉄穴流しによって、今日の広大な大地が築かれ、黄金に輝く実りは奥出雲仁多米として特産品となりました。かつて鉄山であった林野は、将来を夢見て盛んに植林がなされていきました。

冬に立ちあがる、たたら製鉄の炎は奥出雲町の景観を形成しながら、歩んできたものです。

今日の景観は、先人たちが日々の営みにより、少しずつ長い歳月を経てつくられたもので、地域の人々の生活や生業および当該地域の風土によって形成され、生活のなかに溶け込んでいる身近なものです。

しかしながら、景観をつぶさに見つめると、その地で育まれた歴史文化や風土を色濃く残し、これに地域ごとの独特な風致があいまって、それぞれ固有の景観をつくりあげています。ここに奥出雲町の景観の特性が見いだされており、本町の景観を構成する中核となる要素です。

以上のように、豊かな自然環境に先人たちが生活や生業などの営みによって働きかけて形成された景観は、本町の景観の本質的価値を示すもので、地域の景観形成プロセスを理解し、発展させていくうえで欠くことのできないものです。

(2) 景観資源の特性別分類

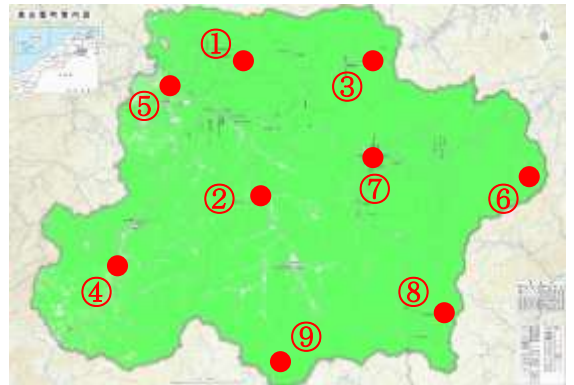
本町の景観資源の特性として下記の5つがあげられます。



季の景

—とぎのけしき— 季節を愛でる自然的景観資源

春には記紀神話に登場する船通山（鳥髪の峰）に群生する「カタクリ」の花が咲き、夏は山々が深緑に包まれ、小川に蛍が舞い、秋には巨岩・奇岩が無数に存在する「国の名勝及び天然記念物 鬼の舌震」が紅葉に包まれ、冬にはすべてを包み込む雪景色など、奥出雲には四季折々の様々な資源があります。



①城山からの景色（布勢地区）



②鬼の舌震（三成地区）



③玉峰山（亀嵩地区）



④鯛ノ巣山（阿井地区）



⑤要害山からの景色（三沢地区）



⑥船通山（鳥上地区）



⑦斐伊川（横田地区）



⑧三井野原の山々（八川地区）



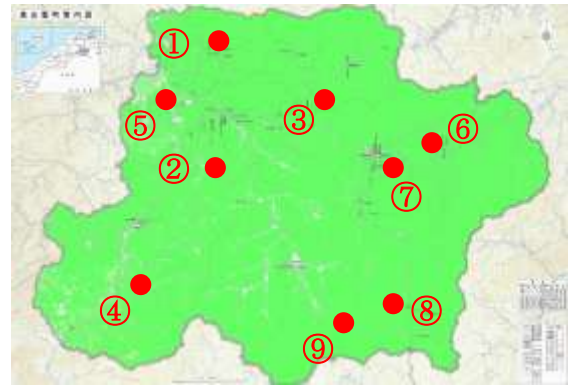
⑨吾妻山（馬木地区）



－こめのけしき－ 仁多米がつなぐ生産的景観資源

米の景

鉄穴流しによって拓かれた豊潤な大地と昼夜の温度差等自然条件に恵まれ、銘柄米「コシヒカリ」を中心に「仁多米」の産地であり、幾重にも重なる棚田が広がります。秋には天日で乾燥させるため「はで」が並びます。また、開畑農地の花咲くそば畑など生業に関連する景観があります。



①佐白町付近の棚田（布勢地区）



②矢谷に広がる棚田（三成地区）



③亀嵩農道付近の田園（亀嵩地区）



④鯛ノ巣山と田園（阿井地区）



⑤要害山の麓（三沢地区）



⑥船通山と田園（鳥上地区）



⑦蔵屋に広がる田園（横田地区）



⑧小八川川と鯉のぼり（八川地区）



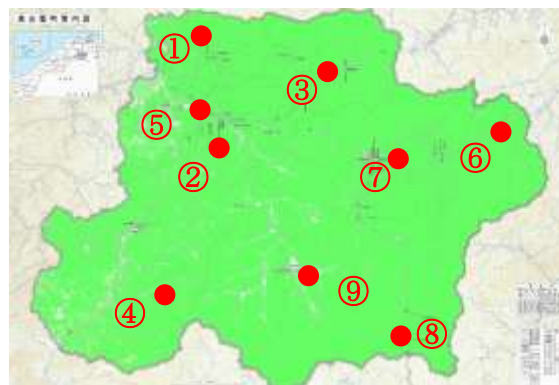
⑨大原新田の棚田（馬木地区）



—にぎわいのけしき— 潤いと賑わいのある暮らしの景観資源

賑の景

幹線道路やJR木次線沿線は本町の景観動脈であるだけでなく、訪れる人々のアクセス経路であり、潤いと賑わいのある町並みが形成されています。三成地区のLED発光ダイオードを使用した街路灯の町並みや横田地区の街路事業による町並みは景観形成に良好な役割を果たしています。



①尾原ダム周辺（布勢地区）



②三成公園（三成地区）



③玉峰山荘（亀嵩地区）



④一味同心塾（阿井地区）



⑤みざわの館（三沢地区）
H24.4オープン



⑥わくわくプール（鳥上地区）



⑦横田多里線街路（横田地区）



⑧おろちループ周辺（八川地区）



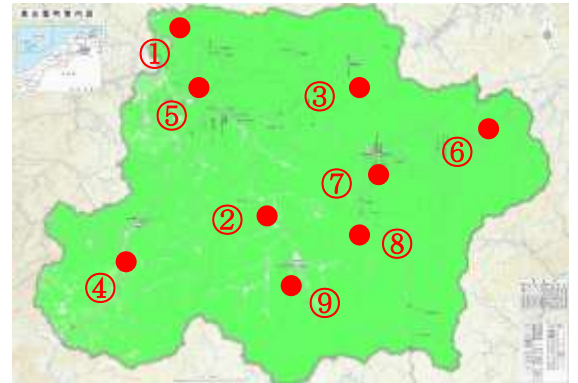
⑨馬木小学校周辺（馬木地区）



—さとのけしき— 郷土愛を育む歴史・文化的景観資源

郷の景

古事記、日本書紀、出雲国風土記まで歴史はさかのぼり、布勢の元結い掛けの松、鏡ヶ池、長者屋敷や横田の産湯の地、三沢の三津池、三沢池など多くの神話の舞台が今なお残っています。また、伝統芸能文化である阿井の押輿祭り、鳥上の愛宕祭りなども大切に守り続けられています。



①鏡が池周辺（布勢地区）



②鬼の舌震（三成地区）



③湯野神社（亀嵩地区）



④押輿祭り（阿井地区）



⑤三沢城武者行列（三沢地区）



⑥大呂愛宕祭り（鳥上地区）



⑦稲田神社（横田地区）



⑧郷土資料館（八川地区）



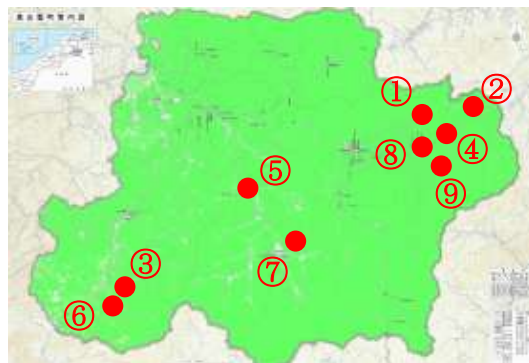
⑨金言寺の大イチョウ（馬木地区）



—てつのけしき— 連綿と続きたたら製鉄の景観資源

鉄の景

風土記時代から連綿として山を削り、砂鉄を取り、たたら製鉄を営みながら、鉄穴流跡にできた平地を水田にしてきました。現在も古代からの技法により世界で唯一操業している「日刀保鉾」のたたら製鉄はその中核をなすものであり、また、絲原家、櫻井家、ト蔵家などの鉄師を拠点としたたたら山内は本町の特出すべき景観であります。



①鳥上木炭銑工場（鳥上地区）



②羽内谷鉾山鉄穴流し本場（鳥上地区）



③角炉伝承館（阿井地区）



④旧ト蔵氏庭園（鳥上地区）



⑤絲原家住宅（八川地区）



⑥櫻井家住宅（阿井地区）



⑦大原新田（馬木地区）



⑧鉄穴残丘（鳥上地区）



⑨鉄穴流しより形成された水田（鳥上地区）

3 景観形成の課題

(1) 季の景 －ときのけしき－ 季節を愛でる自然的景観資源

広大な林野が占める本町は、中国山地脊梁の稜線で囲まれ、そこから派生する谷々が源流となり、下流域で斐伊川に合流しています。この山並みなどの自然景観は、本町の景観形成上の基盤となるものです。

近年、社会情勢や高齢化等により、森林資源に目が向けられず、松くい虫や竹林の無秩序な増殖など、一部で荒廃が進み、良好な山村景観を乱しつつあります。また、林道整備や生活インフラ整備に伴う鉄塔などの開発行為により、眺望を阻害する場合があります。河川等の水辺景観をみると、土砂堆積による葦の繁茂や護岸改修などにより水辺に親しみにくくなっています。

四季が織りなす初夏の薫風、そして水のせせらぎや秋の紅葉などは、人々を和み癒してくれます。森林の適正な維持管理のための林道整備やインフラ整備も必要不可欠なものであり、心の豊かさと潤いをあたえる自然景観との調和と配慮による開発行為がなされるよう調整・誘導する必要があります。

(2) 米の景 －こめのけしき－ 仁多米がつなぐ生産的景観資源

本町は有機質に富んだ肥沃な土壌と、斐伊川源流のミネラルをふんだんに含んだ清らかな水、そして昼夜の温度差など、良質米の生産条件に恵まれ、良質米の産地として知られています。

しかしながら、放棄水田などは少ないものの、米価の低迷や担い手不足により、離農が少しずつ進行しています。また、転作水田や畑作農地では様々な農作物の生産を試行錯誤していますが、安定的な経営に至らず耕作放棄地が増加する傾向にあります。

春秋に彩る水田や広大な花咲くソバ畑など、本町の実りの景観を持続的に維持していくため、地域コミュニティでの連携協力や担い手支援、安定的な農業経営ができるよう環境整備が必要となっています。

(3) 賑の景 －にぎわいのけしき－ 潤いと賑わいのある暮らしの景観資源

奥出雲町は国道314号線、国道432号線の2線が横断しており、また、JR木次線沿線を中心とした町並みが形成されています。

三成駅前前の街路灯や横田駅前の統一感を持たせた街並み景観は、往来する人々に活気と賑わいを感じさせてくれます。

しかし、幾多の歴史文化を積み重ねて形成されてきた各地区の街並みには、モザイク状に空き家が見受けられはじめました。景観の問題はもちろん、防犯面でも課題が出始めており、何らかの対策が求められます。

これと同時に、商店街の空き家店舗や遊休地の有効活用等を促進し賑わいを兼ねそろえた景観づくりも必要です。

また、奥出雲の山あいを走り抜けるトロッコ列車「奥出雲おろち号」からの景色は絶景ではありますが、一部で景色を損ねているものもあります。

これらのことを踏まえて、元気で賑わいのある町づくりと景観形成の両立を図っていくことが必要です。

(4) 郷の景 **－さとのけしき－ 郷土愛を育む歴史・文化的景観資源**

本町には、記紀神話で登場する神話伝承地や、風土記に載る三沢社や伊我多気社など歴史的建造物も残っています。また、晩夏を飾る愛宕祭りや、それに映し出される田園風景など“ふるさと”の景観を見せています。

これらの素晴らしい故郷の景観は、歴史的・文化的にも価値があるものにも関わらず、認知されていないことや情報発信不足、さらには誘導サインや維持管理が不十分であるために、誘客力に乏しい点があげられます。したがって、発情報発信力を高めるなど町内外に誘いかけが求められます。

また、守り継がれてきた歴史的・文化的価値のある風景を標識や電柱、ガードレールなどの新建材により雑然化してしまうことがあります。そのようなことを防ぐため、色彩に配慮したものが今後、ますます必要になります。

(5) 鉄の景 **－てつのけしき－ 連綿と続きたたら製鉄の景観資源**

櫻井家、絲原家、ト蔵家は歴史遺産として保全整備され、これらの景観資源は観光交流地として活用されていますが、たたら製鉄がもたらした歴史的景観の一部に過ぎません。

これは、鉄穴流し跡は水田に姿を変え、たたら製鉄の跡地は林野に埋没しているため、認知性が低く、価値が見いだされていないことに原因があります。

今後は歴史的な風土を培った貴重な地域資源として有効に保全活用していくため、認知性を高めていくことが必要です。

たたら製鉄に伴う文化的景観は、本町の特出すべき景観であるとの共通認識を持ち、地域住民の生活に配慮しつつも、歴史遺産と調和するよう景観形成をすすめていくことが求められています。